

男女共同参画部門「女子会」報告

会員サービス委員会

委員長 高井まどか

男女担当 根本香絵

開催日時：2015年3月13日（金）12:00～13:00

開催場所：東海大学湘南キャンパス AM14 会場

第62回応用物理学会春季学術講演会期間中に「女子会」を開催致しました。今回は、特別シンポジウム「応用物理分野で活躍する女性達・第3回バイオエレクトロニクス編」終了後の昼休みに設定し、講師の方にも出席して頂いて、リラックスした雰囲気の中で交流を深める企画でした。しかし、特別シンポジウム「応用物理分野で活躍する女性達」が時間超過したため、シンポジウム内で企画されていた「パネル討論」を、急遽、女子会の中で行うことになりました。

女子会に参加しようと集まった女性研究者15名程度（委員除く）に、シンポジウムの聴講者が合流し、40名程度（男性7～8名）の参加者で会がスタートしました。パネル討論が始まり、司会の高井先生からパネリストに、各所属での男女共同参画の実態について質問が投げかけられました。いずれの組織も、制度は十分整いつつあるとの報告がありましたが、討論は、フロアを巻き込んで、今なお、女性の登用などが進まない理由などについて活発な議論に発展していきました。男性の意識や働き方、日本における長時間労働についてなど、それぞれの職場での様子を報告したり、率直な意見を述べたりと、議論は留まるところを知らず、あっという間に女子会の半分の時間が経過してしまうほどでした。

女子会では、立食形式で軽食を用意していただきましたので、後半は、食事をしながら交流を深めていきました。前半の活気ある討論の後ということもあり、引き続き議論をしているグループもあれば、大学院の女子学生の参加も多かったため、キャリア・進路相談も各所で行われており、会場は、熱気であふれておりました。話は途切れることなく、ノーベル物理学賞受賞記念講演の受付ギリギリまで多くの方が会場に残っていました。これは、多くの方が交流を求めていることの表れではないでしょうか。

応用物理学会は、男女共同参画で先駆的な活動を行ってきた学会であり、社会制度が整いつつある今だからこそ、女性の立場からの取組みだけではなく、男性の立場も考慮した男女共同参画を推し進めていく必要があると、改めて確認することができた会となりました。引き続き、「女子会」を企画し、ライフ・アンド・ワークバランスに高い意識をもつ会員が性別に関係なくネットワーク作りを行える場を提供していければと思っております。

以上